

1 教育目標

(1) 令和 6 年度 名古屋市の学校教育を通じて目指したい姿

- 実現したい市民の姿
自由な市民として互いを認め合い、共に社会を創造する
- 目指したい子どもの姿
ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける
- 重視したい学びの姿
 - ・ 自分に合ったペースや方法で学ぶ
 - ・ 多様な人と学び合う
 - ・ 夢中で探究する
- 子どもたちが必要に応じて、仲間や大人の力を借りたり、自分の力を貸したりする「ゆるやかな協働性」のもとで一人一人が自律して学び続けている姿が、目指したい子どもの姿。
- 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の考え方に基づく名古屋市の実践を踏まえて、大切にしたい 3 つの要素が「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」。

(2) 本校教育目標

自ら学び、考えることができる、思いやりの心をもった、地域社会に対応できる人間性豊かな生徒の育成

- ・ 基本的な学力を身につけ、自主的に問題を解決する生徒の育成
- ・ 自他の命を大切にし、正しい判断力と思いやりのある生徒の育成
- ・ 生涯を通じて心身ともに健康で活力ある生徒の育成
- ・ 勤労と責任を重んじ地域社会に生きる自覚、人権を尊重する心、公共のためにつくす豊かな心の育成に努める

2 本年度学校教育の努力点とその推進計画

【令和 6 年度 学校努力点】

自ら学び合う一色生

(1) 努力点の設定の理由

本年度の学校生活や、学校評価アンケートの結果から、本校の実態を以下のように捉える。

- ① 授業は真面目に受けているが、受動的で、基礎・基本の定着に不安をもっている生徒が多い。
- ② 行事や部活動に意欲的に参加する生徒は多いが、リーダーシップを発揮したり、自ら考えて行動したりする生徒が少ない。
- ③ 優しく、温和な生徒が多いが、ささいなことで悩みをかかえたり、時に心ない言動で相手を傷つけたりすることがある。

(2) 昨年度の取り組み

令和5年度は学習到達度の評価方法を追究した。評価の妥当性・納得性を向上させることを追究したことで、生徒の実態に応じた必要な指導が何かを探ることにつながった。全教員が観点別に評価基準を設定し、日頃行っている指導方法・成果を共有した。

評価基準を設定したことで、基準を満たす解答を導くために必要な指導方法を計画的に考えることができた。また、学習内容の要点を生徒に分かりやすく伝えたり、確実に定着するよう繰り返し指導したりする指導方法の工夫にもつながったため、基礎的・基本的な学力の定着を図ることに一定度の成果があった。生徒に実施したアンケートでは、基礎的・基本的な学力が定着したと感じた生徒は6割に達した。

一方で、学習した語句を使ったまとめや意見を形成したが、話し合ったり解決策を考えたりしたことで、自分が理解した内容が不十分であったと振り返った生徒は7割を越えた。また、授業の工夫には一定度の評価をしたものの、基礎的・基本的な学力の定着を暗記を中心に図ることを学校評議員から要望された。

以上のことから、今年度の成果を基に、これまでの学校努力点で取り組んだことを総活し、学習する内容と言葉を大切にする方法を通して生徒の基礎的・基本的な学力の定着を図ることとする。

(2) 努力点の推進方法

- 全国学力・学習状況調査、生活記録や各種アンケート、WEBQ U、スクリーニングなどを活用し、生徒の実態を把握する。
- 各教科での取り組み
 - ・ 昨年度までの学校努力点を基にし、本時と単元のねらいを生徒に明確に示すとともに、評価の観点ごとに設けた学習方法を踏まえて評価基準を設定する。評価基準を基にして授業を組み立てることで、指導方法の見直しと改善を図る。また、評価基準を基に自分の成果を振り返ることで、生徒は、自分の到達度を知ることができ、自分に適した学習方法を選択することができるようになる。
 - ・ 教職員間で学習方法と評価基準を協議し、生徒の実態に応じた指導方法を工夫して実践する。学習方法と評価基準を定期的に振り返り、そのねらいや設定の妥当性、課題点を共有する。
- 特別活動、総合的な学習での取り組み
 - ・ 学級活動、生徒会活動、総合的な学習の時間の取り組みに、協働して調べたり、相談したりする活動を取り入れ、相手の立場や意見を尊重しながら自分の意見を主張し、合意を目指すことができるようにする。
 - ・ リーダー、フォロアーの育成と、生徒が主体的に行事に取り組むことができるよう、行事の取り組みを工夫する。
 - ・ いじめ防止教育プログラムや自殺予防を取り入れた授業や、体験的活動を取り入れた道徳を行い、話し合いの活動を通して、思いやりの心を

もった生徒を育成する。

- 子ども応援委員会と連携し、自殺予防やストレスマネジメントについての授業の実践や、S C との面談機会を増やすことにより、心の安定を図る。
また、スクリーニングを取り入れて、生徒が抱える課題が顕在化する前に未然に防止するよう取り組む。

(3) 努力点の推進計画

月	内 容	
4	努力点部会 生徒理解	各教科、部会で学校努力点、実践計画の設定。 生徒指導方針の検討・共有。 生徒の理解のための情報交換・情報共有。
5	授業実践Ⅰ	評価基準を設定し、指導方法を工夫した授業の実践。
6	生徒理解	教育相談の実施、WEBQUの分析と情報共有、スクリーニングの分析と情報共有。
7	授業の振り返り	1学期に設定した設定した評価基準と指導方法の対応、妥当性、課題点の振り返りと情報共有。
	学校評価	学校評価アンケートの実施と分析。
8	生徒理解	子ども応援委員会と連携した、WEBQU・スクリーニングの分析と情報共有。
9	生徒理解	発達特性の理解と指導法の検討・共有。
10	授業実践Ⅱ	評価基準を設定し、指導方法を工夫した授業の実践。
11	生徒理解	教育相談の実施、WEBQUの分析と情報共有、スクリーニングの分析と情報共有。
	授業実践①	子ども応援委員会と連携した、自殺予防やストレスマネジメントについての授業実践①。
12	人権教育	人権週間に人権に対する理解を深める実践。
	授業の振り返り	2学期に設定した設定した評価基準と指導方法の対応、妥当性、課題点の振り返りと情報共有。
1	努力点部会	各教科部会での実践成果のまとめ、次年度への課題についての検討。
	授業実践②	子ども応援委員会と連携した、自殺予防やストレスマネジメントについての授業実践②
2	努力点まとめ	各教科、領域での努力点のまとめ。

※ いじめ等対策委員会は月に1回の頻度で開催する。

(4) 推進の組織

努力点推進委員会のもと、指導場面に応じた部会を編制し、全職員がいずれかの部会に所属する。

各部会において、年間の具体的な活動内容を話し合い、その結果を基に全校態勢で取り組む。

